



2025年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年8月6日

上場会社名 株式会社 J-オイルミルズ

上場取引所 東

コード番号 2613 URL <https://www.j-oil.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 CEO (氏名) 佐藤 達也

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 CFO 財務部長 (氏名) 内田 敬之

TEL 03-5148-7100

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	58,512	8.0	2,323	1.3	2,470	2.1	1,584	1.5
2024年3月期第1四半期	63,584	5.9	2,355	230.9	2,419	209.4	1,609	201.9

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 2,421百万円 (23.6%) 2024年3月期第1四半期 3,168百万円 (221.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	47.90	
2024年3月期第1四半期	48.65	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	177,367	103,416	58.0
2024年3月期	178,093	102,051	57.1

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 102,928百万円 2024年3月期 101,605百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		30.00		30.00	60.00
2025年3月期					
2025年3月期(予想)		30.00		30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	120,000	3.7	3,000	39.3	3,000	40.3	1,800	47.4	54.42
通期	245,000	0.3	7,000	3.4	7,500	17.1	5,000	26.4	151.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

詳細は、[添付資料] 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期1Q	33,508,446 株	2024年3月期	33,508,446 株
2025年3月期1Q	434,800 株	2024年3月期	434,400 株
2025年3月期1Q	33,073,860 株	2024年3月期1Q	33,075,895 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

株主資本において自己株式として計上されている株式給付信託に残存する自社の株式は、期末自己株式数および期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。当該信託が保有する当社株式の期末株式数は、前連結会計年度および当第1四半期連結累計期間262,214株であり、期中平均株式数は、前第1四半期連結累計期間264,100株、当第1四半期連結累計期間262,214株であります。

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料] 3 ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(重要な後発事象)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、雇用や所得環境の改善による個人消費の持ち直しやインバウンド需要の拡大などを背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方、不安定な国際情勢による原材料・エネルギーコストの高止まりや円安の長期化の影響による物価上昇など、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況下において、当社は油脂汎用品の価格適正化に取り組むとともに、「低負荷」を差別化された強みとして高付加価値品の拡販に努めました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高585億12百万円（前年同四半期比8.0%減）、営業利益23億23百万円（前年同四半期比1.3%減）、経常利益24億70百万円（前年同四半期比2.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益15億84百万円（前年同四半期比1.5%減）となりました。

セグメントの概況は、次のとおりであります。

(油脂事業)

主原料である大豆相場は、4月は南米の豊作期待や米国の作付け面積増加の観測から期近限月で1ブッシェル当たり11米ドル台にて推移しましたが、4月下旬にブラジル産地南部で発生した洪水の影響が懸念されたことから5月中旬には一時12米ドル台半ばまで上昇しました。その後は、米国産地の順調な作付け進捗や生育状況を受けて、6月に入り11米ドル台後半まで下落しました。前年同四半期との比較では低位での推移となりました。菜種相場は、4月は期近限月で1トン当たり600加ドル台前半にて推移しましたが、5月には大豆相場に連れ高となり600加ドル台後半まで上昇しました。その後は、カナダ産地の天候が概ね良好で、作付けや生育状況に懸念点がなかったことから下落に転じ、6月下旬には500加ドル台後半まで下落しました。前年同四半期との比較では低位での推移となりました。

ドル円相場は、日米の金利差が拡大した状況が継続するとの見方が強まったことから4月末には一時1米ドル160円台まで円安ドル高が進行しました。5月上旬には政府・日銀による為替介入により一時151円台までドルが急落しましたが、その後は、米国の早期利下げ観測の後退が意識される中、円安ドル高傾向が継続し、6月末には161円台を付けました。前年同四半期との比較では円安水準での推移となりました。

油脂部門につきましては、家庭用油脂は、物価高騰による節約志向の高まりや外食への回帰の影響、オリーブオイルの値上げによる需要減少等により販売数量は前年同四半期を下回りました。一方で、オリーブオイルの販売価格改定の取り組みや、環境負荷の低減やお客様の使いやすさが特長である「スマートグリーンパック。」など注力商品の継続的な拡販に努めたことで、売上高は前年同四半期をわずかに上回りました。業務用油脂は、物価高騰による節約志向の高まりの影響もある中、インバウンド需要の拡大を受け、外食を中心に販売数量は堅調に推移しましたが、原材料価格の軟化の影響を受けて販売単価が下落したことにより、売上高は前年同四半期を下回りました。当社独自技術「SUSTEC。(サステック)」シリーズでは、市場の回復により深刻化する人手不足や環境への意識の高まりを背景に、長持ち機能を活かしたフライ油交換の労働負荷の軽減や、CO₂の排出量を大幅に削減できることを認証したCFP (Carbon Footprint of Products) を拡大し、店頭での環境負荷低減への訴求を推進しました。また、調理にかかる時間や負荷を軽減する「調味油」「調理油」など、機能性を強化した高付加価値品の拡販に努めました。

油糧部門につきましては、大豆ミールは搾油量が前年同四半期と同程度を確保しましたが、販売数量は前年同四半期を下回りました。販売価格は為替相場が前年同四半期より円安となったものの、シカゴ大豆ミール相場の下落により前年同四半期を下回りました。菜種ミールは搾油量が前年同四半期を大きく上回ったことから、販売数量は前年同四半期を大きく上回りました。販売価格は大豆ミール価格に連動して前年同四半期を下回りました。

以上の結果、当事業は売上高532億19百万円（前年同四半期比7.8%減）、セグメント利益23億1百万円（前年同四半期比5.6%減）となりました。

(スペシャリティフード事業)

乳系PBF部門につきましては、業務用油脂加工品は、原料高による最終商品のダウンサイジングや容量変更等により、販売数量は前年同四半期を下回りました。インバウンド需要が堅調に推移する中、発売10周年を迎えた「グランマスター[®]」シリーズがお客様からの高い評価のもと、土産物菓子向けの販売をけん引しましたが、売上高は前年同四半期をやや下回りました。粉末油脂事業は安定した操業を維持したものの、原料相場変動の影響を受け、販売数量、売上高ともに前年同四半期を下回りました。

食品素材部門につきましては、テクスチャーデザインは、食品用澱粉の需要が回復したことや油脂と協働した「おいしさデザイン[®]」によるソリューション提案の推進により、販売数量は前年同四半期を大きく上回り、売上高は順調に推移しました。「TXdeSIGN[®] (テクスデザイン)」シリーズにつきましては、製菓製パン用途や畜肉用途への提案を強化することでターゲット顧客での採用が進みました。ファインは、ビタミンK2が国内市場を中心に新規採用や使用量拡大が進んだことに加え、米国や台湾など海外への輸出拡大に取り組んだ結果、売上高は前年同四半期を上回りました。大豆たん白をベースとしたシート状大豆食品「まめのりさん[®]」は、流通在庫の平準化により従来の販売数量に回復したことや新規顧客を獲得したことで、販売数量、売上高ともに前年同四半期を大きく上回りました。

以上の結果、当事業は売上高50億46百万円（前年同四半期比9.5%減）、セグメント損失17百万円（前年同四半期はセグメント損失1億27百万円）となりました。

(その他)

その他の事業につきましては、売上高2億46百万円（前年同四半期比5.5%減）、セグメント利益39百万円（前年同四半期比8.2%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ7億26百万円減少し1,773億67百万円となりました。主な増加は、流動資産その他が10億69百万円、投資有価証券が3億38百万円、現金及び預金が2億89百万円です。主な減少は、棚卸資産が25億16百万円、無形固定資産が88百万円です。

負債は、前連結会計年度末と比べ20億91百万円減少し739億50百万円となりました。主な増加は、流動負債その他が19億69百万円、繰延税金負債が8億18百万円です。主な減少は、短期借入金13億円、未払法人税等が21億39百万円、未払消費税等が12億32百万円です。

純資産は、前連結会計年度末と比べ13億65百万円増加し1,034億16百万円、自己資本比率は58.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、前回公表（2024年5月10日）の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,246	4,536
受取手形、売掛金及び契約資産	45,486	45,573
商品及び製品	17,614	20,441
原材料及び貯蔵品	37,863	32,519
その他	3,595	4,665
流動資産合計	108,806	107,736
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,235	8,184
機械装置及び運搬具（純額）	12,834	12,965
土地	18,454	18,447
リース資産（純額）	1,145	1,135
建設仮勘定	1,285	1,222
その他（純額）	859	850
有形固定資産合計	42,813	42,805
無形固定資産	2,835	2,746
投資その他の資産		
投資有価証券	20,907	21,246
退職給付に係る資産	2,092	2,130
繰延税金資産	153	161
その他	578	636
貸倒引当金	△118	△118
投資その他の資産合計	23,613	24,056
固定資産合計	69,263	69,608
繰延資産	23	21
資産合計	178,093	177,367

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,727	21,348
短期借入金	4,600	3,300
未払法人税等	2,619	479
未払消費税等	1,498	265
賞与引当金	1,359	519
役員賞与引当金	58	11
役員株式給付引当金	—	5
その他	12,107	14,077
流動負債合計	42,971	40,008
固定負債		
社債	12,000	12,000
長期借入金	12,240	12,240
リース債務	946	937
繰延税金負債	2,549	3,367
役員株式給付引当金	139	175
環境対策引当金	23	23
退職給付に係る負債	2,930	2,946
長期預り敷金保証金	2,219	2,228
その他	22	22
固定負債合計	33,071	33,941
負債合計	76,042	73,950
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	31,633	31,633
利益剰余金	54,415	54,944
自己株式	△808	△809
株主資本合計	95,241	95,769
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,899	5,062
繰延ヘッジ損益	198	725
為替換算調整勘定	454	575
退職給付に係る調整累計額	812	794
その他の包括利益累計額合計	6,364	7,158
非支配株主持分	445	487
純資産合計	102,051	103,416
負債純資産合計	178,093	177,367

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	63,584	58,512
売上原価	54,424	48,649
売上総利益	9,160	9,862
販売費及び一般管理費	6,804	7,538
営業利益	2,355	2,323
営業外収益		
受取利息	0	3
受取配当金	83	79
持分法による投資利益	5	27
受取賃貸料	6	6
デリバティブ評価益	—	47
雑収入	19	28
営業外収益合計	115	193
営業外費用		
支払利息	35	29
支払手数料	7	8
雑支出	7	9
営業外費用合計	51	47
経常利益	2,419	2,470
特別利益		
固定資産売却益	0	97
投資有価証券売却益	38	3
特別利益合計	38	101
特別損失		
固定資産除却損	106	83
リース解約損	2	0
損害賠償金	38	—
特別損失合計	148	83
税金等調整前四半期純利益	2,310	2,488
法人税、住民税及び事業税	503	367
法人税等調整額	193	520
法人税等合計	697	887
四半期純利益	1,613	1,600
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	15
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,609	1,584

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	1,613	1,600
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	665	161
繰延ヘッジ損益	793	527
為替換算調整勘定	27	54
退職給付に係る調整額	△0	△18
持分法適用会社に対する持分相当額	70	95
その他の包括利益合計	1,555	820
四半期包括利益	3,168	2,421
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,151	2,378
非支配株主に係る四半期包括利益	16	42

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
	油脂事業	スペシャリ ティフード 事業	計				
売上高							
家庭用油脂	7,609	—	7,609	—	7,609	—	7,609
業務用油脂	30,867	—	30,867	—	30,867	—	30,867
ミール類	19,269	—	19,269	—	19,269	—	19,269
乳系PBF	—	3,075	3,075	—	3,075	—	3,075
食品素材	—	2,502	2,502	—	2,502	—	2,502
その他	—	—	—	260	260	—	260
顧客との契約から生 じる収益	57,746	5,578	63,324	260	63,584	—	63,584
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	57,746	5,578	63,324	260	63,584	—	63,584
セグメント間の内部 売上高又は振替高	389	31	421	—	421	△421	—
計	58,135	5,610	63,745	260	64,006	△421	63,584
セグメント利益又は 損失(△)	2,439	△127	2,311	43	2,355	—	2,355

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
	油脂事業	スペシヤリ ティフード 事業	計				
売上高							
家庭用油脂	7,823	—	7,823	—	7,823	—	7,823
業務用油脂	27,658	—	27,658	—	27,658	—	27,658
ミール類	17,737	—	17,737	—	17,737	—	17,737
乳系 P B F	—	2,579	2,579	—	2,579	—	2,579
食品素材	—	2,467	2,467	—	2,467	—	2,467
その他	—	—	—	246	246	—	246
顧客との契約から生 じる収益	53,219	5,046	58,265	246	58,512	—	58,512
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	53,219	5,046	58,265	246	58,512	—	58,512
セグメント間の内部 売上高又は振替高	539	22	561	—	561	△561	—
計	53,758	5,068	58,827	246	59,074	△561	58,512
セグメント利益又は 損失(△)	2,301	△17	2,283	39	2,323	—	2,323

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	1,268 百万円	1,001 百万円
のれんの償却額	2	2

(重要な後発事象)

該当事項はありません。